

第3章 救助・救命訓練

大規模地震発生時には、家屋の倒壊・土砂災害等により多数の要救助者が発生すると想定されます。このような状況において、被害を最小限にとどめ発生した被害を軽減するためには、迅速な初動対応における救助活動が最も重要です。活動する際は、二次災害の防止を含め、安全管理に十分配慮した上で、活動しましょう。

3-1 倒壊家屋からの救助活動

1 現場活動要領

① 安全確保

1 二次災害防止のため、現場付近全体の安全確認のため、早期に監視員を配置し、監視体制を整えます。



3 二次災害の発生を防ぐために、木材等を活用して補強します。



2 活動は任務を明確にして、指揮者の統制下で行います。活動中に監視員から二次災害発生危険等の情報があった場合は、即刻退避します。



②倒壊家屋からの救助活動

- 1 要救助者に対しては、声をかけて安心感を与えると同時に、状況を把握する。複数の要救助者を発見した場合は、状況把握し、救出順番を決めます。



- 2 **[資機材使用上の注意]** 救助活動にあたっては、必要な救助資機材等を準備します。



- 3 救助資機材等を使用する際は、ゴーグル等の個人装備を確実に装着するとともに、周囲の安全を確認してから行います。



- 4 **[資機材使用上の注意]** 火花を発生させる資機材を使用する場合は、周囲に可燃性ガスや着火しやすい物がないことを確認してから使用します。



- 5 資機材で開放した部分については、切り口で受傷しないように注意します。



- 6 **[要救助者救出]** 要救助者を救出したら、消防団本部等へ報告するとともに容体を観察します。



- 7 要救助者を毛布等でくるみ、担架にて安全な場所まで搬送後、応急処置を実施して、救急隊員に引継ぎます。



- 8 大規模災害時の検索救助活動には、統一的な活動標示（マーキング）により効率化が図られます。^{*1}



*1 統一的な活動標示（マーキング）として、国際捜索諮問グループ（INSARAG）が策定する標示が導入されており、詳細については6章にて説明しています。参照ください。

2 安全管理のポイント

- ①部隊が整うまでは、情報収集活動等を実施し、単独での救助活動を避ける。
- ②二次災害防止のために、現場付近全体の安全確保を確認できる監視員を配置する。
- ③常に監視員と交信を密にし、情報収集と報告及び連絡を徹底するとともに、状況に変化が見られた時は、直ちに全員に周知し、緊急避難などの措置によって、二次災害を防止を図る。
- ④自らの安全を確保するために、保安帽や手袋などの個人装備品を確実に装着し、さらに、出火の危険がある場合は、防火衣、防火帽を装着し、消火態勢をとる。
- ⑤救助・救命活動は、各団員の任務を明確にし、指揮者の統制化で行う。
- ⑥トタンやガラス、鉄筋など、鋭利な物による受傷危険があるので、毛布などでの被覆、危険物品の除去、折り曲げなどにより危険を排除して活動するとともに立ち入り禁止区域を設定する。
- ⑦柱などの切断による崩れや倒壊にも注意する。また、エンジンカッターなど、火花を発生させる資機材を使用する場合は、周囲に可燃性ガスや着火しやすい物が無いことを確認してから使用する。
- ⑧救助活動中、周囲から延焼拡大がある場合は、消防団本部等に応援要請するとともに、退避ルートを確認する。なお、延焼拡大等により、団員に危険が及ぶと予想される場合には、即刻退避する。

活動時の留意事項

- ア 現場付近全体の安全確保のための監視員を配置する。(二次災害の防止)
- イ 自らの安全を確保するため、保安帽、手袋等を装着する。
- ウ 活動は、任務を明確にして指揮者の統制下で行う。
- エ 要救助者に無用な荷重がかからないよう配慮する。
- オ 救助に必要な資機材として、のこぎり、ベンチ、ハンマー、車のジャッキ、丸太、鉄パイプ等身近で簡易なものを多数準備する。
- カ 活動障害となる針金、トタン板等は早期に除去する。
- キ 余震又は除去することにより、さらに崩壊することのないよう必要な措置を行う。
- ク 除去したものは、救出場所から離れたところに集積する。
- ケ できるだけ医師等の協力を求める。